

第5回北区基本構想審議会 部会2「輝き」次第

令和4年4月19日(火) 18時

北区役所別館研修室

1 開会

2 分野別の20年後の望ましい姿について

- (1) 健康・医療
- (2) 権利擁護・生活支援
- (3) 高齢・介護
- (4) 障害
- (5) 子ども・家庭
- (6) 学校教育

3 職員ワークショップの実施結果について

4 その他

5 閉会

健康・医療分野 20年後の望ましい姿

1 審議会での主な意見

(1) 健康寿命の延伸

- ①若年層からの運動習慣・健康維持活動や正しい知識に基づく健康的な食事・運動などの意識改革が必要である。
- ②気軽に運動ができる場所や機会を増やすことが望ましい。
- ③ライフステージごとの健康・医療に関する情報提供や健康維持活動が必要である。
- ④ICT 導入による予防医療体制の充実。オンライン診療など情報技術を駆使した日常的な医療提供の充実することが望ましい。
- ⑤健診受診による病気の早期発見・早期治療、予防医療へ転換が必要である。
- ⑥体と心の健康維持のための相談がしやすい体制づくりや SOS に気づいてあげるしくみづくりが必要である。
- ⑦こころと体の心配事について、専門職を中心とした市民による相談・サポート体制づくりが必要である。
- ⑧地域で仲間と運動ができるコミュニティづくり。家族、地域、専門職といった多様な主体からの支えによるつながりを持ち、健康に暮らせる社会づくりが必要である。
- ⑨誰もが自分らしくいきいきと暮らしつづけていけることが望ましい。
- ⑩区民、企業との連携した健康増進活動が必要である。
- ⑪喫煙マナー向上が必要である。

(2) 地域保健活動・医療体制の充実

- ①誰もが医療を受けられる社会づくりや受診控えをなくすことが必要である。
- ②気軽に相談できるかかり付け医をもつことが望ましい。
- ③在宅療養を支える体制や老後を安心して暮らせる居場所があることが望ましい。
- ④ワンストップ窓口や ICT の活用や医療職や区民による、相談しやすい体制づくりが必要である。
- ⑤いつでも必要な時に助け出せる・SOS を言える地域づくりが必要である。
- ⑥医療機関の連携、家族や血縁で協力しながらの関係構築、多職種、区民での連携することが必要である。
- ⑦予防医療・予防接種・認知症予防の推進が必要である。
- ⑧現状、オンライン診断など IT を活用した診断の進化がなされ、個人に寄り添った医療となっている。
- ⑨正しい知識をもとに区民が自分で判断し医療を選択できている状態が望ましい。

社会・国・都の動向、現状と課題、取組みの方向性（案）

2 20年後の望ましい姿

- (1) あらゆる世代が自分のこころと体の健康に関心を持ち、身近な場で健康づくりに取り組むことのできる環境の中で、だれもが健康であることを実感しながら、生活をおくることができています。
- (2) だれもが、必要な時に、安心して健康に関する相談や質の高い医療の提供を受けることができ、住み慣れた地域の中で、穏やかに暮らし続けることができています。

権利擁護・生活支援分野 20年後の望ましい姿

1 審議会での主な意見

(1) 権利擁護

- ①成年後見制度や認知症への差別を解消し、正しい理解促進のため、周知や教育が必要である。
- ②本人や本人を支援するひとからも使いやすい成年後見制度にする必要がある。
- ③それぞれの能力にあった働き方や雇用形態が選択でき、働きやすい環境を作ることが望ましい。
- ④住み慣れた地域で、自分らしく、尊厳を保ち、住み続けられる社会の構築が必要である。
- ⑤市民がサポーターとなり、見守る体制を作ることが必要である。
- ⑥ひきこもりや独居など孤立化させないことが必要である。

(2) 家族への支援

- ①介護に携わる家族への負担を減らし、安心して生活が送れるような支援が必要である。
- ②家族だけで介護負担を負わないように制度・政策が整備され、介護で家族に頼らない仕組みや介護する家族へ還元することが必要である。
- ③ICTを活用した相談機能の充実、見守り活動、情報ネットワークの充実が図られると望ましい。
- ④本人、家族、医療機関や施設、行政などの連携を強化し、支え続ける、つながり続けることが必要である。
- ⑤差別されることが無い社会のため、正しい理解のための周知や教育が必要である。
- ⑥困ったときにいつでも相談できる体制が望ましい。
- ⑦認知症や障害をもっている、自分らしく生活ができる安心して住み続けることができる施設とサービスの確保が望ましい。

- ⑧専門家だけでなく、区民ボランティアなど、地域住民同士支援しあえる社会、他者とつながりを持てる社会の構築が必要である。
- ⑨ひきこもりや、老々介護や独居者、障害があるひとの見守りと相談体制づくりが必要である。
- ⑩行政は、適切なセーフティネット確保を行う必要がある。
- ⑪ケアする支援者の育成が必要である。
- ⑫施設従事者の心と体の負担を減らし休める環境をつくるのが望ましい（入所者への暴力防止のため）。
- ⑬地域の仲間づくりが必要である。
- ⑭介護者のレスパイト対応施設があることが望ましい。

社会・国・都の動向、現状と課題、取組みの方向性（案）

2 20年後の望ましい姿

- (1) 被成年後見人の権利を守るとともに、いつでも相談でき、適切な支援へつながれるよう関係機関等が連携を図り、認知症の人や、高齢者、障害者への差別や虐待の無い社会になっています。また、地域の中で、互いに気にかけてあう関係性が築かれ、支えあい、寄り添った支援を受けることができる誰一人取り残さない体制が整っています。
- (2) 介護に携わる人や様々な課題を抱える人が、一人で悩みや負担を抱え込まないよう、多様な主体（地域住民、地域の団体、専門職、行政）がもつ、それぞれの特性を活かした適切な支援を受けられる仕組みが整っています。

高齢・介護分野 20年後の望ましい姿

1 審議会での主な意見

(1) 高齢化対策

- ①ひとり一人が、主体的に社会参加し、いきがいをもって過ごせる取組みや高齢者と一括りにせず、それぞれの特技をもって活躍してもらう事が望ましい。
- ②高齢者が必要とされるまちづくりが必要である。
- ③共通の趣味を持つ人と趣味の場を楽しんだり、研究したり、デジタルデバイドが無いような取組みを行い、孤立させない取組みが必要である。
- ④介護する人も、介護される人も社会と隔絶することなく、ICTの技術を使って社会とかがわられるようにする。デジタルデバイドの解消のためのサポート体制の確立が必要である。
- ⑤知識やスキルを活かしたボランティアなどの社会貢献や第二の就労、自立した生活への支援が必要である。
- ⑥人口構成を受け入れた上での高齢者対策、介護対策が必要である。
- ⑦資金計画への準備を行うことが望ましい。
- ⑧高齢化を高齢化だけの問題でとらえず、横断的な取組が必要である。

(2) 支援体制の充実

- ①多様な主体が支えあう高齢者を孤立させない取組みや大学生のボランティア、高齢者版のファミリーサポート、大人版子ども食堂などがあると望ましい。
- ②地域包括ケアなどのコミュニティを大切にした社会政策が充実した町をつくりあげていく。

- ③地域が大きな家族となって高齢者を見守る。地域が見守ることが望ましい。
- ④介護を受ける側は、サービスの受け手でもあり、与え手でもある。
- ⑤ICTを活用した見守りや介護の現場での支援作りが必要である。
- ⑥介護人材・福祉人材の確保の為に働きやすい職場づくりやそのための独自の仕組みづくりが必要である。
- ⑦老人ホームのリニューアル、自立した生活ができる施設の整備、住み続けられる住まいの確保、住まいの多様性・選択肢があることが望ましい。

(3) 認知症支援

- ①介護や認知症についての理解を深める必要がある。
- ②認知症にさせないよう活動や訪問、ご近所づきあいが望ましい。
- ③認知症予防や早期発見、進行遅延化の取組みが必要である。

社会・国・都の動向、現状と課題、取組みの方向性（案）

2 20年後の望ましい姿

- (1) 地域の中で、一人ひとりが、役割と生きがいをもって社会に参加し、心身ともに健やかに、日々の暮らしが豊かで幸せを感じながら生活をおくることができています。
- (2) 住み慣れた地域の中で、互いを気にかける緩やかな見守りの中で、支え合いとぬくもりを感じる社会がつくれ、いつまでも自分らしい生活をおくることができています。
- (3) 認知症への理解が深まり、認知症になっても尊厳と希望をもちながら、住み慣れた地域で自分らしく暮らすことができるまちになっています。

障害分野 20年後の望ましい姿

1 審議会での主な意見

(1) 支援体制の充実

- ①障害があっても積極的な社会参加や自己実現の促進、生きがいづくりを作る仕組みが必要である。
- ②障害があることで進学、就職の機会、賃金、住む権利を奪われないことが必要である。
- ③医療技術の進歩やバリアフリー化が進み、社会参加しやすい環境が望ましい。
- ④困りごとの相談や買い物、家事などちょっとした手伝いのできる地域づくりが望ましい。
- ⑤親なき後に孤立せず生活できる体制づくりが必要である。
- ⑥障害を一括りにせず、障害の特性やライフステージに応じたきめ細かな支援が必要である。
- ⑦制度のはざまに陥いる障害者がいることがないような支援が必要である。
- ⑧地域でのきめ細かな相談・支援体制、障害児・者のワンストップサービス化が必要である。
- ⑨ICTを使い社会の人々とコミュニケーションが図れ、情報を入手できる。AIを使い介護する側が情報を読み取るなどできる社会となることが望ましい。
- ⑩安心して住み慣れた地域で暮らし続けることができる施設の充実が望ましい。
- ⑪体と心の健康を保つ取り組みが必要である。
- ⑫医療的ケア児の受入ができる体制が必要である。

(2) こころのバリアフリー

- ①障害者を特別視しない、子どもころからの障害者を理解する教育が必要である。
- ②障害に対する知識の普及や啓発活動、交流事業を行うことが必要である。
- ③障害者への理解が進み、積極的援助を惜しまない社会。障害者が生きやすい社会が望ましい。
- ④障害者との交流の機会を積極的に行うことが望ましい。
- ⑤自分の望む暮らしを実現することができる社会が望ましい。

社会・国・都の動向、現状と課題、取組みの方向性（案）

2 20年後の望ましい姿

- (1) 障害のある人が、必要な支援を受けながら、安心して住み慣れた地域で自分らしい生活をおくるために、地域に住む人や多様な主体（地域の団体、専門職、行政）が関わり、それぞれの分野や支え手、受け手の枠組みを超えた支え合いの輪が広がる社会になっています。
- (2) 障害への理解が深まり、地域に住む人々と交流が図られ、差別や偏見がない思いやりの気持ちはあふれる社会になっています。

子ども・家庭分野 20年後の望ましい姿

1 審議会での主な意見

(1) 子育て支援

- ①企業や NPO を含めた社会全体でサポートの仕組み、地域子育て支援が必要である。
- ②妊産婦が気軽に相談・手続きのできる ICT の活用や専門家による相談が必要である。
- ③様々な家庭環境に応じた幅広い支援が必要である。
- ④両親ともに安定した心理状態になることで、子どもが家庭で幸福を感じる事が望ましい。
- ⑤他人と比べない、子どもの個性を伸ばせる家庭環境が望ましい。
- ⑥ひとり親家庭の支援、相談環境が必要である。
- ⑦利用者が欲しいタイミングで情報が提供され、スムーズに伝わる事が望ましい。
- ⑧子どもの誕生前から始まる、切れ目のないサポートが必要である。
- ⑨不妊治療や不育症治療助成など、子どもを産める支援が必要である。
- ⑩安心して出産・子育てができるよう、産後ケア事業、在宅保育の支援・充実が必要である。

(2) 子育て環境

- ①ICT 活用による保育士業務の効率化、環境を充実させることで、保育の質の確保が必要。
- ②子どもセンターや複合施設で親同士の顔見知りの間柄を構築できる環境が必要。
- ③子どもを見守る地域の自主的な体制が必要である。
- ④多様な働き方に応じた、柔軟な保育体制が構築され、親の負担軽減につながる事が望ましい。
- ⑤学童クラブで自由に運動し、交流できるなど、放課後が魅力的になることで子どもの居場所が確保されることが望ましい。
- ⑥幼稚園と保育園の連携を充実し、幼児教育を受けられる事が望ましい。
- ⑦将来的な人口の推移による施設の転用を見据え、施設の運用を検討する必要がある。

(3) 子どもの権利

- ①個の視点、子どもを中心とした子どものやりたいことに沿う社会が望ましい。
- ②子どもの主張を発表できる場の拡大が必要である。
- ③すべての子どもが健やかに安心して過ごせるよう、子どもの権利を守り、子ども中心の施策が必要。
- ④環境や立場の違う子どもが希望をもって生活することができ、誰ひとり取り残さない社会が必要。
- ⑤誰もが学べる環境、子どもらしい本来の生活を守ることが必要である。
- ⑥子どもの食育や学習支援を地域でサポートし、子どもの居場所を作ることが必要である。
- ⑦ヤングケアラーが一人で抱え込まず、地域のつながりなど、相談できる体制が必要である。
- ⑧地域の見守りをはじめ、虐待の早期発見につながる、相談・支援機能の拡充が必要である。

社会・国・都の動向、現状と課題、取組みの方向性（案）



2 20年後の望ましい姿

- (1) 誰もが安心して子どもを産み育てられ、個々の状況に適した切れ目のない支援を受けることで、明るく穏やかな気持ちで子育てができています。
- (2) 地域をはじめとする社会全体が相互に協力し合うことで、子どもや保護者の多様なニーズが充足され、子どもがいまいきと活動できる環境が整っています。
- (3) すべての子どもが権利や尊厳を守られ、自らの将来に明るい希望を持ちながら、安心して健やかに成長しています。

学校教育分野 20年後の望ましい姿

1 審議会での主な意見

(1) 個性尊重の教育

- ①個性を伸ばし（好き・得意が見つかる）、自分らしさを誇れる教育を目指す。
- ②個々のレベルにあった、テラーメイドの教育に期待している。
- ③自ら考え、それを表現可能にする教育（教育でのプレゼンテーションの活用）が求められる。
- ④ICTの活用による学びの形態の多様化が求められる。
- ⑤SDGs、渋沢栄一、リアルな体験など多様な学びを取り入れる必要がある。
- ⑥学力だけでなく、生きる力が身につく（生活力、人間力を伸ばす）教育が望ましい。
- ⑦保幼小の連携（乳幼児の世話と、年少児との遊びと学び）が重要である。
- ⑧地域との関わりやグローバル化に対応できる力が身に付くまちが望ましい。
- ⑨多様な価値観を尊重、多様性への理解が重要である。
- ⑩いじめ、差別、不登校等の根絶のため継続的に取り組む必要がある。
- ⑪特別支援学級や特別支援教室を利用しやすくし、障害があっても平等に教育が受けられる環境が重要である。
- ⑫インクルーシブ教育、障害のある子どもと健常の子供の距離を狭めることが望ましい。

(2) 教育環境

- ①ICT活用の改善（教員、環境、セキュリティ）していく必要がある。
- ②感染症やいじめなど様々な変化に対応できる教育システムを構築する必要がある。
- ③教育格差の是正（ICT活用、奨学金、私立中学校、家庭状況によらず平等な教育機会）が求められる。
- ④教員がゆとりをもって子供に接することができる、のびのびと働ける環境づくりが重要である。

- ⑤教員の身体的・精神的負担が大きいため、負担軽減、業務効率化が必要である。
- ⑥モンスターペアレント等による教員の負担への対応が求められる。
- ⑦教育の質の向上のため、教員に負担をかけない仕組みづくりが必要である。
- ⑧スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーの充実、スキルアップが必要である。
- ⑨相談支援体制の強化が必要である。

(3) 地域との連携

- ①コミュニティスクールを中心とした地域や保護者が主体的に関わることのできる学校運営が望ましい。
- ②学校支援ボランティア、おやじの会など、学校を地域でサポートしていくことが需要である。
- ③学校を拓き、第三者を学校に（部活動講師・コーチ、よろず相談係）入れていく必要がある。
- ④地域コミュニティとの連携、活用し、家庭と地域が一体となることが重要である。
- ⑤世代を越えた学習環境作りが望ましい。
- ⑥負担の大きい古いPTAの考え方を変えてほしい。

社会・国・都の動向、現状と課題、取組みの方向性（案）

2 20年後の望ましい姿

- (1) 子どもたちの個性に合わせた学びや、多様な他者との協働により、主体的に課題を解決する力が身につく、変化の激しい社会を自分らしく生きていく力が育まれています。
また、学校生活上の不安や課題のある児童・生徒への相談・支援体制が整い、子どもたちが安心して楽しく学校生活を送ることができています。
- (2) 新しい学びの形を柔軟に取り入れ、子どもたちの力を引き出すことのできる良好な教育環境が整っています。
- (3) 学校・家庭・地域のつながりが深まり、地域の力を生かした学校運営が進むとともに、子どもたちが社会の一員として様々な活動を通じて、健やかに成長しています。

北区基本構想

北区基本構想策定に向けた 職員ワークショップの実施結果

職員ワークショップ

2

参加者：各部推薦（35歳以下で、係長級、主任、主任選考対象者）及び、政策課題研究会（ロゼ）メンバー 合計34名

実施概要・目的：

- 5～6名の班を分野別（躍動、輝き、創出）に各2班（合計6班）構成し、ワークショップ形式にて実施。
- 審議会における検討材料として活用するため、若手、中堅職員に基本構想等の策定プロセスへの参加機会を設け、基本目標（案）とその説明文の作成について検討を行った。

将来像の分野	包含する要素（政策領域）の例
躍動	地域振興、産業振興、地域文化・生涯学習・スポーツ、観光・シティプロモーション、人権・多文化共生・男女共同参画
輝き	子ども・家庭、学校教育、健康・医療、高齢・介護、障がい、権利擁護・生活支援
創出	都市計画、道路・交通、住宅・公園河川、防災・防犯、環境共生・環境保全・資源循環

北区基本構想

日程・内容：

第1回：令和3年12月20日（月） **「各分野において重視すべき要素の抽出」**

- 各分野 2 グループで分野ごとに議論し「将来像の要素」を作成。



第2回：令和4年 1月12日（水） **「将来像の重視すべき要素と将来の姿の検討」**

- 各分野 2 グループで分野ごとに議論し「将来像を構成する要素」や「実現すべき北区の将来イメージ」を作成。



第3回：令和4年 3月23日（水） **「基本目標（案）の検討・取りまとめ」**

- 第1回、第2回で検討した内容をもとに、分野ごとに2案の基本目標（案）と、それぞれの考え方を端的に表す説明文を作成。



第1回 各分野において重視すべき要素の抽出

	将来像の要素	選定の理由・根拠
躍動	知名度の向上	北区の観光資源（ランドマークなど）を活かし知名度の向上
	次世代につなげる文化芸術	担い手づくり、ICTを活用したコミュニティづくり、外国人との共生
	ダイバーシティにおける全活躍型社会	いつの時代も人種・性別・境遇に関係なく区民が活躍できる社会
	個の尊重は区の成長	多様な個性・文化・国籍・性別を理解尊重する
輝き	子ども・子育て層のネットワークづくり	場所や施設でのイベントにとらわれず、ネット上でのつながる場（＝ネットワーク）があれば、より取り残されることが無い
	ひとりひとりに寄り添った教育で子どもの個性・能力を伸ばす	ハード：環境の整備 ソフト：ICT、多様な学習機会
	地域のつながり、生きがいづくりでいきいきと長生き	いきがいを持って長生き、病気になっても家族と本人が希望を持って暮らす
	個性が輝ける環境	障がいやマイノリティーも含め、“個性”としてとらえる環境づくり
創出	誰でも使える魅力ある公園	誰もが外で楽しく遊べる機会を増やしたい（カフェ、レストラン、遊具の整備、清潔感の維持）
	持続可能性社会の形成	環境保全、資源循環、ゼロカーボン
	安心・安全な都市基盤の整備	狭く、暗いと怖いから（道路の拡幅、無電柱化、災害対策）街路樹等も
	ゼロ・カーボン循環型社会の推進	省エネと資源循環が重要だから

【躍動】将来像の重視すべき要素と将来の姿の検討

将来像を構成する要素	北区の問題点と可能性	実現すべき北区の将来イメージ
地域のつながり 生涯スポーツ	<ul style="list-style-type: none"> 高齢化による担い手不足 ICTを活用した地域への愛着づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ICTの活用による全世代が地域への愛着を持てるコミュニティの実現 スポーツを通して世代の垣根を超えた地域のきずなづくり
次世代につなげる文化芸術	<ul style="list-style-type: none"> 文化芸術の衰退 新技術を活用した次世代への文化継承 	<ul style="list-style-type: none"> 新技術を活用した未来へつなぐ次世代への文化芸術の継承 デジタル社会に対応した文化芸術の新しい発信
ダイバーシティにおける全活躍型社会	<ul style="list-style-type: none"> 多種多様な価値観をはぐむ土壌づくりの不足 だれでもいつでも自由に学び挑戦できる社会 	<ul style="list-style-type: none"> だれでもいつでも自由に学び挑戦できる全活躍型社会の実現 多種多様な価値観を認め、共有しあう全活躍型社会に実現
知名度の向上	<ul style="list-style-type: none"> 区民の愛着が世代間でバラつきがある 観光資源の把握不足及び利活用不足 広報の工夫の余地あり 文化施設の利活用可能性追求 	<ul style="list-style-type: none"> 誰もが愛着とほこりをもって住みつづけたいまちの実現 週末のお出かけの目的地として訪れたいまちの実現
個の尊重は区の成長	<ul style="list-style-type: none"> 職員の区政への理解が不足している 個を尊重することへのニーズに対応できていない 住民の多国籍化が進んでいる 	<ul style="list-style-type: none"> 個の尊重は区の成長 誰もが自分らしい生き方で輝けるまち



【躍動】基本目標（案）の検討結果

	基本目標（案）	説明文
躍動 1	<ul style="list-style-type: none"> • 多種多様な価値観ときずなをはぐくむまち 北区 • 個性がいきるまち 北区 • 全活躍型社会 北区 	<p>ICTを活用して、文化芸術を未来へつなぐとともに、区民一人ひとりが地域への愛着ときずなを深め、自由に学び挑戦できる全活躍型社会北区をめざします。</p>
躍動 2	<ul style="list-style-type: none"> • だれもが花咲かせるまち • 帰宅したくなるまち 北区 • 個の尊重は区の成長 • まちどおいしいまち北区 	<p>だれもが、文化・歴史を継承する担い手となり、自らの個性に花咲かせながら、北区とかわることに誇りが生まれ、それが新たな北区とのかかわりを生み出す循環と広がりのあるまちをつくっていきます。</p>

【 輝き 】 将来像の重視すべき要素と将来の姿の検討

将来像を構成する要素	北区の問題点と可能性	実現すべき北区の将来イメージ
ひとりひとりに寄り添った教育で子どもの個性・能力を伸ばす	<ul style="list-style-type: none"> サポート体制が不十分 ICT活用が不十分 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの個性・能力を伸ばす環境づくり あらゆる個性を認めあえる学びの場の実現
多様化する環境に応じた子育てサービスの提供	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの福祉需要が増加している 人材不足の対応が不十分 	<ul style="list-style-type: none"> 多様化する環境に応じたよりきめ細やかな子ども福祉サービスの提供
<div style="background-color: yellow; display: inline-block; padding: 2px;">子育てサービス・環境</div> 子育てしやすい環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> 環境が充実している 活用できる人材が多い 	<ul style="list-style-type: none"> 地域のコミュニティを活かした子育てしやすい環境づくり
地域のつながり、生きがいづくりでいきいきと長生き	<ul style="list-style-type: none"> 集う場所がある つながりの格差がある 	<ul style="list-style-type: none"> 地域のつながり、生きがいづくりでいきいきと長生きできる街づくりの実現 つどいの場の充実を魅力発信
子ども・子育て層のネットワークづくり（オンライン）	<ul style="list-style-type: none"> セキュリティ・リテラシーの整備・ネットいじめのリスク ネットワークを持たない方への支援 トレンド（メタバース・e-sports） 北区は地域のきずなづくりに注力している点 	<ul style="list-style-type: none"> どんな子どもたちも楽しく競い合えるe-sports大会の開催によるコミュニティづくり 仮想空間を整備して地域ネットワークの充実を図り、共有したくなるまちづくり
IT化の進展に対するフォロー	<ul style="list-style-type: none"> コスト面 デジタルデバイド 東洋大との連携 IT化の進展による、多くの世代の地域参加、コスト削減 	<ul style="list-style-type: none"> IT先進都市・北区 次世代を担うITスペシャリストの育成 デジタルデバイドの解消により、誰もがIT化の恩恵を享受できる地域社会の実現
個性が輝ける環境	<ul style="list-style-type: none"> いじめ、不登校等相談数の増加 教育者への指導 知る機会を増やす 多様性社会推進課がすでにある 	<ul style="list-style-type: none"> 区民がカラフルに輝ける環境づくり No.1ではなくオンリーワンな教育の推進 おたがいさまネットワークの延伸
健康寿命の延伸	<ul style="list-style-type: none"> 高齢化（25%超） 区ですでに健康寿命の増進に注力しており実績有 	<ul style="list-style-type: none"> 年齢に関わらず健康づくりに取り組み健康を楽しむ社会の実現 世代を超えて健康を楽しめるまち



【輝き】基本目標（案）の検討結果

	基本目標（案）	説明文
輝き 1	<ul style="list-style-type: none"> • パパママ安心！みんなが主役の生涯輝きタウン • 生涯現役！あなたの個性が輝くふるさと • 希望がキラキラ！みんなのふるさと北区 	<p>地域のふれあいのなかで子どもたちが自由にくすくすと成長でき、生涯を通して誰もがいきいきと個性を輝かせ、希望があふれるまち北区をめざします。</p>
輝き 2	<ul style="list-style-type: none"> • 可能性と笑顔を咲かせるハートフルシティ • 自分の色を発見・シェアできるまち • 笑顔を共有！ふれあいのまち 	<p>世代を超えて楽しみや情報を共有することで、日常が鮮やかに彩られ、誰もがカラフルに輝くハートフルなまち、街中に笑顔がさくら咲くまちの実現を約束します。</p>

【創出】将来像の重視すべき要素と将来の姿の検討

将来像を構成する要素	北区の問題点と可能性	実現すべき北区の将来イメージ
誰もが生きやすいまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> 多様性への対応不足 区民との協働不足 再開発の余地がある 	<ul style="list-style-type: none"> 多様性を尊重した誰もが住みやすいまちの形成 多様な主体が関わり合うまちづくり
持続可能性社会の形成	<ul style="list-style-type: none"> 環境活動への動機づけが不足 環境活動の不足 資源が多い（公園・河川など） 	<ul style="list-style-type: none"> 主体的な持続可能性社会の実現 環境活動に参画しやすい仕組みづくり 地域資源を活用し、経済的自立を達成した環境活動の推進
安全に暮らせる仕組みづくり	<ul style="list-style-type: none"> 意識、知識の不足 予算不足 土地・スペース確保の必要 付加価値の創造 	<ul style="list-style-type: none"> コミュニティ防災の推進 付加価値のある安全なまちづくりの実現
誰でも使える魅力ある公園	<ul style="list-style-type: none"> 敷地と費用の不足 民間活力の活用が少ない 交流の場の更なる確保 	<ul style="list-style-type: none"> 新たな交流が生まれる拠点づくり 官民協働でつくりあげる魅力ある公園の実現
安心安全な都市基盤の整備	<ul style="list-style-type: none"> 敷地と費用と時間の不足 住民理解の不足 安心、安全ではない 景観の向上（魅力） 	<ul style="list-style-type: none"> 災害時に命を守る安心安全なまちづくりの推進 明るくキレイな街並みの実現
ゼロ・カーボンシティ気候変動対策の推進	<ul style="list-style-type: none"> 住民理解の不足 異常気象対策の不足 費用減できる 再生エネルギーによる防災対策の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 自然災害を防ぐゼロ・カーボンシティの実現 気候変動適応策の推進

【創出】基本目標（案）の検討結果

	基本目標（案）	説明文
創出1	<ul style="list-style-type: none"> 未来へ向かって成長していくまち 北区 北区でであり、おもいでをつくる 人とみどりをまもるふるさと北区 	<p>多様な主体がまちづくりに関わる仕組みの中で、北区らしいなつかしさを守りながら、新たな安全や価値を生みだしていき、人とまちがともに成長し続けます。</p>
創出2	<ul style="list-style-type: none"> 人と交流、環境と共生できるまち 新しいにぎわい、交流がうまれる魅力ある拠点へ サステイナブルタウン北区 	<p>明るくきれいな安心して暮らせる街並みの整備がなされ、だれもが分け隔てなく楽しく交流ができ、持続可能で環境と共生できる、災害に強い安心安全な魅力あるまち北区をめざします。</p>